

ZEN

全道展機関紙

NO. 6

全道展機関紙 "ZEN" 第6号 昭和56年2月28日発行
 発行所 全道美術協会 事務局 〒061-21 札幌市南区滝川6条12丁目
 渡会純价方 T 011 (581) 2528
 印刷 中西印刷株式会社 011 (781) 7501
 編集委員 青木 淳子 岸本 裕男 坂原 チエ
 佐藤 靖 谷口 一芳 久守 昭嘉

第36回

全道展に期待

三十五周年記念展という節目を、大きな成果をあげて終えたのも束の間の感、早やふた月後には三十六回展の搬入となつた。

予てよりここ数年全道展の会期が、夏場を前後し不定であったことから、元のように六月末を望む声が多くつた。この度、会場の道立近代美術館側との折衝も纏まり、六月開催の運びになつた。

但し、残念なことだが、今年も搬入・出、審査会場となる札通ホール側と調整がつかず、如何ともしがたく搬入日から会期まで、二十日以上も間を置く結果となつた。盛り上りを欠くことを懸念し、深くお詫びします。

協会の意向として、来年度よりは、札幌市で建設される市民ギャラリーを使用し、会期の固定化を図る予定である。又、同会場は現美術館特別展示室の倍のスペースを見込める箇である。詳報は決定次第、ZENで発表しますが、差し当り本年度も出品条件として、絵画部門の出品作の中に入六十号以下を、必ず一点加えること（会友も同じ）は変わらない。

第36回
全道展作品公募

搬入・5月24日(日) 25日(月) 札通ホール

(札幌市中央区北10西17)

会期・6月18日(木)~28日(日) 北海道立近代美術館
主催・全道美術協会・北海道新聞社

この条件は、今回で三年目を迎えるが、狭い会場の苦肉の作とばかりと言えぬ、質的向上に功を奏していると思う。

*

昨年から搬入会場が、札通ホールに変り、慣れぬ会場での作品の取扱いから、損傷が目立ったことは、誠に遺憾に思う。主催者として最善の努力は払っている心算りであるが、単期間に千数百点の作品を鑑別し、移動しなければならないだけに、苦慮するところである。全道展だけに限らず、どこの公募団体の共通の悩みであるが、出品者各位にもご理解を頂くと共に、高級額及びスチール額（角をやすりで落し、若干丸味をつける）の使用は出来るだけ控えて欲しいものである。

*

前号に報じた全道展地区委員会は、道内を五ブロックに分け、全道展の連帶と啓蒙によって構成され、全道展の連帶と啓蒙に當ることになった。開催地の札幌に偏重されたことなく、又、重圧にならぬ様、各地の会員によつて構成され、全道展の連帶と啓蒙に當ることになった。

区の事情を考慮しながら協力してもらうことになつたので、相談の窓口としてもご利用して頂きたい。

人間も三十六歳となると中年、会の老化現象を防ぐためにも、新鮮にして魅力ある企画大きさ、点数制限なし、但し絵画作品の内一点は必ず60号以下であること。（一点出品の場合60号以下）、会友もこれに準ずる。

● 本郷 新を記念する財団法人

『札幌彫刻美術館』六月下旬開館予定。故

本郷新的遺作を常陳するので御期待下さい。故

●

上野山

清賀展、道立近代美術館で五月十

六日より六月十四日まで、主催・道立近代美術館と北海道新聞社、遺作一二〇点を陳列。

● 第四回北海道現代美術展に於て、版画の一原有徳会員が北海道立近代美術館賞を授賞されました。お慶び申し上げます。

第36回全道展の応募について

出品を希望する人は、左記宛に返信用切手60円を添えて、出品規約、目録用紙（応募用紙）を請求下さい。但し、三月中旬以降。

・北海道新聞社事業局文化部全道展係、〒060-191
 また、前回の応募者全員には会員登録送付されます
 し、有名画材店頭にも置いてあります。

全道展作家探訪（4）

本田 明二 会員

—彫刻になる顔、彫刻をする顔—

柄 内 忠 男



絵でも彫刻でも同じだが、作風の固定化よりも、心の動くままに仕事を進めようとする作家がある。

本田さんは、いろいろな影響を受けながら幅広い仕事を続けてきた彫刻家だと思う。だから、自分が袋小路に追い込むようなことはない。気の向くままに仕事をするという制作態度が、彼の作品に示されている。

ある時は、ムアの影響を受けたであろうし、ある時は、マリーニの影響を受けたであろう。写実のすぐれた“鎌倉彫刻”を、狙おうとするのも、本田さんの仕事の一面でもある、なんといつても、本田明二の彫刻は、本田明二自身のものだ。

天衣無縫の本田さんは或る日、飲みながらこう語った。「俺は、可能性が股引をはいているようなものだ。惚れられるよりも、惚れる方が大事だ。惚れるのは仕事の“糧”だ。たとえ相手が、惚れていないなくても……」なんと限りない、彼の欲望であろう。円山西町の山麓に新居を築いて三年になる。三間と四間半、高さ五メートルというアトリエで、“あさましく”仕事できる環境を得たばかりではなく、本田さんは、このように心が燃えている。

六年前の木彫「マント」は、作家の感性による、簡潔な表現がフレッシュである。極度に単純化された首は球体となり、そこには、目・鼻・口の入り込む余地はない。肩からなだらかに流れる曲線は、造形的な効果となっている。本田明二のタンペラマントでもいうべきものか、人間性か、作品には暗さが感じられない。作品から、心が伝わってくる。

「単純化は、芸術の目的ではない。しかし、事物が真実に近づくとき、単純化になるのだ。」と、ブランクーシーはいつていふ。「マント」は、単純化を潜在させながらも、フォルムを捉えようとしているところに、この作品の美しさがある。

昨年全道展に出品した「ノチクサ」は、蠣崎波瀬の作品からヒントを得たものといふ。鹿を背負った男の像である。この作品は、新制作展にも出している掛井五郎と船越保武の作品が左右に並び、会場のいい場所に置かれていた。

札幌時計台ギャラリー

—洋画材料専門の店—

OAK画材

札幌市中央区北1西3仲通
TEL 261-8971

holbein アーチストピグメント

(ホルベイン専門家用顔料)

あなたの手で、油彩画、フレスコ画
テンペラ、日本画、水彩等の古典画法
を再現できます。

—詳しくは最寄りの画材店で—
ホルベイン工業株式会社

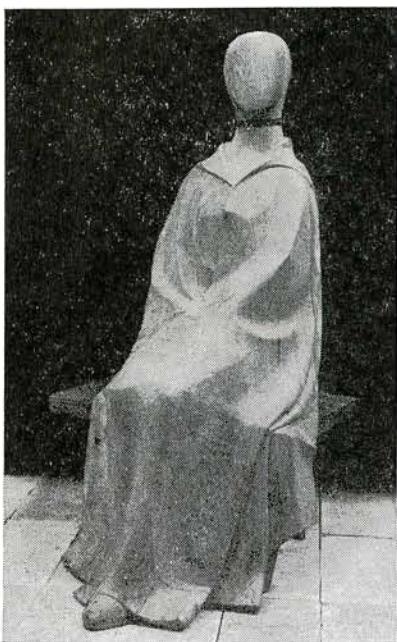
北海道地区総代理店㈱布川

洋画材料

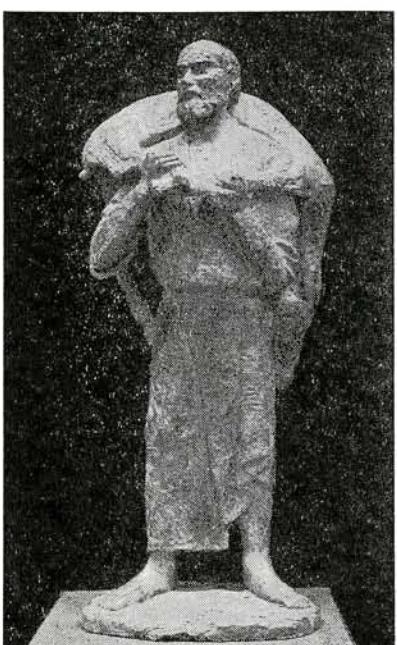
大丸藤井

セントラル

札幌・南1西3



マント(坐る) 1975年



夷首ノチクサ 1980年

本郷新さんとの出会いは、彼が新制作展に初出品した時であり、おつき合いが始まったのは、本郷さんが札幌に「牧歌」や「泉の像」などの彫刻を建てるようになつた頃からである。

旭川市に建つ「風雪の群像」以来、数々のモニュマンの制作に、彼は上京し、本郷さんの仕事を手伝うようになつた。その中で受けた影響は、彫刻ばかりではなく、大きなものがあつたに違いない。

一昨年、還暦を迎えた本田さんは、十二月は札幌で、一月には日本橋の高島屋で、自選展を開いた。本田明二自選展に寄せ

アンドレスの深山に大鷲と斗う狩猟民族か、オホーツクの氷海に立つてトドにもりを打つ北海道原住民か
それとも
黒海の大草原に羊を追い、太陽の下でヨーグルトをなめるグルジュアの遊牧民か、本田明二の風貌の中には、こんなに遠い精悍な何かがある。

それでいて
本田明二は心やさしく人一倍のはにかみやである。
彼は気取らない。彼は気張らない。のがか

人と動物の有機的なイメージを表現しているこの作品は、空間やフォルムの緊張感の強まつた本田さんの代表作の一つといえよう。鹿に限らず、「獸と人」との組み合せを、今年は二メートルほどの木彫と取り組むという。

て」と、書き残された本郷さんの文章は、十一月三日と日付が入つていて。亡くなる三ヵ月前である。
本郷さんの真実な眼で、やさしく、美しい見つめた本田明二を綴つて。ぜひ、読んでもらいたいので、ここにもう一度紹介させていただく。

である。

彼は甘くも辛くもなく、湧き水のように屈託がない。

本田明二には案外匠氣というものが感じられない。粘つて粘り抜こうとする気はない。無法に大らかである。

頼りになるようで頼りにならないが頼りにならないようで頼りになる。——中略
どんなに大きい作品でも力んだところがない。どんなに小さい作品にも情がこもつて一人でにこにこしているところがある。

ちょっと目にはすぐ手が出ないが一度手にすると知らず知らずのうちにその魅力にとりつかれて、作者と愛好者の間に愛が深まる。この深まる愛こそ本田明二に彫刻をさせている目に見えない底力なのである。

早くも還暦と聞く。
奮斗を祈るや切である。

印刷の美を 私達は考えます

中西印刷株式会社

札幌市東区東苗穂町505番地 TEL 011(781)7501

緑の空中庭園に囲まれた
ギャラリー

大同ギャラリー

札幌市中央区北3条西3丁目
札幌大同生命ビル TEL 241-8271 内88

ぜんしんデザイン 良い物を製品

株式会社 森山額縁店

札幌市狸小路5丁目 TEL 011(251)-9000

●東京地区 渡辺 真利
　昨年来、東京地区の会合を設けようとの話がありながら今日まで実現できなかつたのは、居住地域が広範囲であることの他に、旅行や各地での個展など、相互にめぐるしさがあつて一同に会することができずじまいであつたのが実状であるうと思ふ。それがあくまでも個々のありようかかっている。

(敬称略)

渡辺 真利

又、全道展に関しては「特に意見なし」という返信が多かつたが、東京地区的会員のなかには、公募展やグループ展その他のなどに携わる人が多く、その中で運営上の変さを痛感しているものと思われるのでも「全道展に関してはようしくお願ひします」という意味が含まれているものと推察し、東京地区からの報告を終ります。

(敬稱略)

昨年来、東京地区的会合を設けようとの話がありながら今日まで実現できなかつたのは、居住地域が広範囲であることの他に、旅行や各地での個展など、相互にめまぐるしさがあつて一同に会することができずじまいであつたのが実状であるうと思ふ。

個人的な動向については、個人宛の葉書「事務局への通信」と重複することになろうと思うが、特に連絡があったものをあげると、菅野充造・二月東京個展。蛭子善悦

・二月末家族と帰国、東京、札幌で個展の後四月再渡仏、田辺謙輔・メキシコに四月まで滞在。佐藤忠良・パリ国立ロダン美術館で四月三日から六月三十日まで個展。小林斉・岸葉子・六月東京個展などである。

要望、意見として、(1)本展や移動展の際に作品に破損が出ないように厳重に管理して欲しい。(2)創立当時の会員がだんだん他界されていることでもあり、間もなく四十周年を迎えるにあたって、しっかりとした会

(中一二筋×長さ十筋が) いよいよ、三月末に完成、共にうれしい限り……祝・盃。木村訓丈さんはヴィーンのラーベンスターイン画廊にて、長驅、作品展(三月五日迄)。

渡仏久しい橋本三郎さんは大変元氣、五月初めに一時帰国との留守宅情報。

一年間のスペイン留学を終つて、会友の伊藤聰さんが帰国、目下放電中、力作を期待します。

トピックフ

水 彩		工 芸		版 画		彫 刻		油 絵		／	
4%		30%		15%		32%		49%		九八七	e 31
—	三三	二二	七三	一四	九〇	四一	一三八	九〇	一	八八七	
3%		28%		16%		30%		15%		八二三	e 32
—	三一	二六	九四	二三	一二二	三九	一三〇	二	三三		
5%		23%		12%		27%		11%		八三三	e 33
—	二六	三三	三八	二三	一七七	三五	一三九	九三	三三		
3%		23%		11%		30%		11%		八八二	e 34
—	三六	三四	四五	二〇	一七九	三六	一三〇	九八	二	一〇四	
7%		25%		11%		25%		10%		一〇七九	e 35
—	三一	四一	四〇	一六一	二四	二一〇	三一	一	一		

過去五年間の全道展入選率をみると、
全道展の搬入数と入選数は年々厳しいものがある
ことと定評有名店とし、入選率は年々減少して、この難題に
辺りみ方、宮口三一九三二一一五二三。田

ませ。はじめての御案内やお知らせ嬉しいです。札幌 大沢あい子

消息・近況など

●図録の作品写真もう少しレベルアップ
お願いできなくてどうか。

●三年間も休んでいた帯広巡回展のこと
で、三時間近くの激論。前売券を一〇〇枚完全消化しなければ赤字であること。
・文化行政からの援助は過去八年続けた巡回展の経験から再開にあたって一举に多くの期待できないこと、……等々。し

●日高おろしの身をさす十勝特有の西風の吹く一月十四日、全道展のよき理解者である千田氏の経営する喫茶「ウイン」で、十勝、帯広の仲間九名が集まり新年茶話会（無論アルコール付）を持ちました。

●昨年11月より伊達小学校に勤めております。とても古い古い一軒家で生活しています。

く御指導お願ひします。

●図録の作品写真もう少しレベルアップお願いできないでしょうか。

全道展・図録・ZEN等への
貢献

個展グループ展案内

- 大谷久子個展
1/22～ギャラリード・ラ・ベ(神戸) 5月末(札幌)

●原原有徳展
1/9～1/24 アート・フロント(東京) 3/9～3/14 画廊みやざき(大阪)

●森谷一個展
1/10～1/31 ほし(砂川)
10/5～10/10 時計台ギャラリー(札幌)

●ホワン・ミロ国際デッサンコンクール
国内外展示入選出品
1/8～1/17 川上画廊(東京)

●菅野充造個展
2/9～2/14 横画廊(東京)

●木村丈蔵個展
2/5～3/4 (ヴィーン)
6/22～7/4 小品展(函館)
9月(東京)・11月(函館)

●鈴木伝個展
2/6～2/12 ～エルム画廊(札幌)

●長谷川常雄個展
2/5～2/10 いしい画廊(函館)

●草薙 竹岡羊子参加
3/2～3/7 望月画廊(東京)

●渡会純价個展
3/20～4/2 パルコギャラリー(札幌)

●望月正男個展
3/23～3/28 時計台ギャラリー(札幌)

●36会+α展 渋谷・竹内・谷口・本田・渡辺・嵐・柄内参加 4/2～4/7
アートギャラリーさいとう(札幌)

●秋山沙走瓦個展 4月(函館)
11月初旬 日本橋三越(東京)

●箱根春保素描展
4/9～4/14 いしい画廊(函館)

●鋼筆画6人展 大川・艾沢・杉浦・和田・小池・岡本参加
4/27～5/2 時計台ギャラリー(札幌)

●三人展(山岡三秋参加)
7/11～7/17 東急画廊(札幌)

●グループ「泥」展
5/25～5/30 時計台ギャラリー(札幌)

●坂原チエ個展
5/25～5/30 時計台ギャラリー(札幌)

●嵐玲子個展
6/8～6/13 時計台ギャラリー(札幌)

●村元俊郎個展
6/8～6/13 時計台ギャラリー(札幌)

●手島圭三郎個展
6/8～6/13 時計台ギャラリー(札幌)

●平間文子・斎藤矢寸子2人展
6/15～6/20 時計台ギャラリー(札幌)

●小島直吉個展
6月中旬 小樽美術館(小樽)
7月初旬 ささき画廊(鉄道)
7月下旬 パークホテルギャラリー(札幌)

●渡辺美智子個展
6/29～7/4 時計台ギャラリー(札幌)

●大地康雄個展
7/20～7/25 時計台ギャラリー(札幌)

●佐々木悦子個展
7/20～7/25 時計台ギャラリー(札幌)

●福井正治個展
7/27～8/1 時計台ギャラリー(札幌)

●川本ヤスピロ個展
7/27～8/4 時計台ギャラリー(札幌)
3/1～3/4 喫茶ポケット(札幌)

●戸次正義個展
8/10～8/15 時計台ギャラリー(札幌)

●山本恒二個展
8/17～8/22 時計台ギャラリー(札幌)

●彫刻家集団北斗会第10回記念展
秋山参加 8/17～8/22
大同ギャラリー(札幌)

苦小牧・池本 良二

● 厚真・福井 正治
ZENが届くと心が躍ります。もとと發行回数が多ければいいなーと勝手に思ってますが大変でしょうね。

● 目下小品手がけ乍ら全道展出品在
品の構想をねみております。苦小牧地区
も全道展に出品(会員も含め)三十人程
い世帯になりました。時々お互いの親睦
を深め、又刺激しあう意味で会合を持た
たいと考えておりますが明二十七日は新
年会を兼ね小生宅で今年第一回目を催す
ところです。 苦小牧・浅野 武彦

● 現在全道展、国展、個展の作品制作中
です。身体の調子悪く自下浅野アヤ生
とをお知らせいただき有難く存じます。
今からいい作品をと心がけたいと思いま
す。 石狩・大森 亮三

● 無胃性貧血が個疾となり何をするにも疲労がひどく、三、四〇号の画でも仲々の重労働で一〇〇号ともなれば全く無理感となつた。空疎な大作を重んじない気持方に變りはないがこうなると不思議に大作が描きたくなる。物ごと出来るうちに為すべし。古風に言へば今年は喜多吉です。

● 室蘭・高野 次郎

● 白い雪におおわれたアトリエの窓から僅かにのぞく青空を眺め夢ははてしなく、今年こそよい仕事をと自分に鞭打っています。 札幌・渡部 重夫

● 西村貴久子会員が病氣療養中です。

無胃性貧血が個疾となり何をするに
も疲労がひどく、三、四〇号の画でも仲々
の重労働で一〇〇号ともなれば全く無理
となつた。精神的な作業を重んじない大作
にはないがこなると不思議に大作打
が描きたくなる。物ごと出来うるうちに為
すべし。古風に言えば今年は喜寿であ
る。

室蘭・高野 次郎

● 白い雪におおわれたアトリエの窓から
ら僅かにのぞく青空を眺め夢はてしな
く、今年こそよい仕事をと自分に鞭打つ
ています。

札幌・渡部 重夫

● 西村貴久子会員が病弱養護中です
くわしい問合せは、事務局までお願ひし
ます。住所録の住居は引上げましたので、郵便、電話は通じませんの御承知

下さい。

(事務局)

住所・電話番号・呼称変更上

池本 良三	水落 啓	志津 照男	志津 照男	志津 照男	志津 照男
二一五〇一五一一〇五	一一二一八	古宇郡泊村字白別一七五	河西郡芽室町西四条七丁目	一	一
二〇五三 苫小牧市北光町	二〇二九二（五三）四一〇	古宇郡芽室町西四条七丁目	二公住五七六	二〇二九二（五三）四一〇	二
二丁目五一三	二〇一四四（七三）四五二	古宇郡芽室町西四条七丁目	一二九三 東京都八王子市	二〇一四四（七三）四五二	三
三	水戸市松ヶ岡三	福井のばら 夏山亞貴王	東浅川町三一	伊達市旭町四四	三一〇 水戸市松ヶ岡三
一	一	福井のばら 夏山亞貴王	一一二九三 東京都八王子市	十三条西十四丁目自二九一三	二
田中 和子	藤井 高志	木村 訓丈	木村 訓丈	二〇五六 札幌市中央区北	二〇五三 苫小牧市北光町
一	橋本 克豊	松隈 康夫	松隈 康夫	二〇六〇 札幌市中央区北	二丁目五一三
安井 孝	加七三一	大屋 敬子	大屋 敬子	二〇六一 一二一 札幌市南	三
一	目五〇一八	大森 亮三	大森 亮三	二〇六一 一二一 札幌市南	三
田中 進一	元一〇一四一 函館市本通町四	吉田万里子	吉田万里子	二〇六一 一二一 札幌市南	三
一	〇二一五四三	多田 壽	多田 壽	二〇六一 一二一 札幌市南	三
輪島 進一	〇〇一三八（五四）四二六	今野 秀貴	今野 秀貴	二〇六一 一二一 札幌市南	三
一	江別市野幌若葉町三三の七	（電話番号変）更〇一三三	（七三）一五三一	二〇六一 一二一 札幌市南	三
一	目五一一二	至急速締下さい。	住所不完全です。事務所に	二〇六一 一二一 札幌市南	三
一	一〇四二 函館市西旭岡町	転居先を連絡下さい。	至急速締下さい。	二〇六一 一二一 札幌市南	三

記。 P 一七 愚話の森 会友大森亮三追
金子正幸退会追記。

●P一二〇・全道展小史中、三津谷与理子を三津谷理与子に。

訂正

北川 豊 一〇一三八(二)五六〇
岡沼 淳一 一〇五三 苦小牧市泉町一
西村 貴久子 一一〇一七
●会員、会友、入選者で住所変更のある場合は、急事務局まで連絡下さい。
九に訂正 現在入院中で住所未定。

おれかし
全道展員、会友で病氣入院等の方を
知った場合は、その病状など事務局まで
お知らせ下さい。

○P.九下段、今年の受賞作入選作ともに、を今年の受賞作は一般入選作より見劣りする作品がある、に。

全道展に閲するお問合せは次の所
へ。
・全道展事務局／〒〇六一—二一札
幌市南区滝川六条十二—二二二
方（五二一）二二二八
・北海道新聞社事業局文化部全道展
担当／〒〇六〇—一九一札幌市中央区
大通西三丁目〇一—（三二一）二
一一
・会員、会友で会費未納の方は早急
に納入して下さい。郵便振替口座、
小樽八一七、嵐玲子方全道美術協
会宛。

個展・グループ展の貸額縫と公募展の
搬入・搬出の代行作品運送に
是非御利用下さい（多少にかかわらず
御連絡下さい）

美術展覽会貸縁・美術品扱専門店

北 義 美 術

〒061-24 札幌市西区手稻前田657-110

011 (682) 6340